

水戸農業高校（JA常陸）和牛甲子園を目標に新たな挑戦が始まる！

全国の農業高校生が和牛肥育の腕を競う第7回和牛甲子園（2024年1月開催予定）への出場を目指し、水戸農業高校の生徒の挑戦が始まりました。

和牛甲子園は将来の担い手となる生徒の肥育技術向上を目指し、全国農業協同組合連合会（JA全農）が2018年1月から開始しました。

第5回大会は2022年1月にオンラインで開催され、最多となる全国から36校（51頭）が出場しました。



写真：水戸農業高校畜産科の生徒と
（有）水戸畜産の小松本さん（左端）

和牛甲子園は、日ごろの和牛肥育の取り組みを審査する「取組評価部門」、枝肉の霜降りや造りを競う「枝肉評価部門」のほか、両部門の合計点で決まる「総合評価部門」で賞を競います。

水戸農業高校は今年5月と6月に2頭の肥育用素牛を導入しました。「2頭とも発育が良く順調に育っていて、今後の肥育成績に期待ができる子牛だ」と同校OBで（有）水戸畜産の小松本さんは語りました。

生産指導等には、同校OBの生産者をはじめ、JA常陸、JA東日本くみあい飼料㈱、JA全農いばらきの担当者が定期的に訪問し、和牛肥育に関してフォローできる体制を取っています。

同校2年の佐藤愛蘭さんは「自分たちの手で肥育した和牛を出品するのが楽しみ」と目を輝かせて語りました。



写真：（有）水戸畜産の小松本さんと

JA常陸の黒田担当による実技講習会の様子